

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

多様性が求められる時代に柔軟に対応した制度作りと社内啓発を行い、SDGsに掲げられた目標の達成に直接あるいは間接的に貢献する製品の製造・販売を通して地域や社会に先進の技術にて安心を提供し、社会文化に貢献する企業を目指す

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
☒ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	営業活動他に不可欠な社有車輛を適宜ハイブリッド車に置き換え、業務活動量を維持しながら化石燃料の使用量を削減し、CO2排出を低減させることで環境負荷の低減を図る。 併せて、テレワークの推進及び直行直帰の励行から無用な車輛移動を漸減させ、渋滞低減に貢献する。	社有車のハイブリッド車比率 2024年7月 14.2% (全70台 ハイブリッド車10台) →2026年 20%
☒ 環境 ☐ 社会 ☐ 経済	工場を中心としたサプライチェーン全体の環境負荷低減。 Scope1:LPG使用量低減、使用材料の見直し Scope2:使用電力量低減、環境配慮型製品の開発 Scope3:モーダルシフト、環境配慮型製品の開発	サプライチェーンのCO2排出量5%低減 2023年 44,584 tCO2 →2026年 42,354.8 tCO2
☐ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	多様な人材が能力を最大限に発揮できる、インクルーシブで働きがいのある職場環境を構築する。 性別に関わらず、育児や介護などのライフイベントとキャリアを両立できる制度と文化を醸成する。	男性社員の育児休業取得率 2023年度20% →2026年度30%以上

<パートナーシップ>

熊本県内の学校や自治体と連携し、インターンシップの受け入れや就職イベントへの参加、授業協力などを通じて、若者が地元で働く魅力を感じられる機会を積極的に提供している。企業内部においても、年齢や性別に関係なく、全ての社員が安心して能力を発揮できる職場環境づくりに努めている。

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。
・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関するこれまでの重点的な取組み及び指標に係る進捗状況>

三側面 (分野に☑)	取組みの状況	前期の指標	実績
☒ 環境 ☒ 社会 ☒ 経済	地域・社会文化を広める文教施設市場に対し、その施設に対する有効な利用(展示その他)や安全・安心な環境提供を可能とする各製品の提案・販売する企業活動を行う。 →コロナ禍や財源削減により、文化財の保存関連事業が資金不足に陥った施設が多かったことが遠因となり未達成。	博物館・美術館に対する売上の2020年直近5期平均比5%増(関連売上)を目指す。	66期～70期平均 987,700千円 69期～73期平均 976,448千円 (1.14%減)
☒ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払う等、工場において環境負荷低減を目指す。 →資源使用量、消費電力量については目標達成。輸送におけるCO2排出量については繁忙期や天候不良による輸送計画変更の影響により一部未達成。	輸送におけるCO2排出量の削減、資源使用量、消費電力量の5%削減を図る。	資源使用量(不適合鋼材量) 2021年1425kg→2023年975.4kg(32%減) 消費電力量については各設備において約13%削減 輸送におけるCO2排出量 2023年度:直近5年平均値より0.21%増
☒ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	従業員の安全・安心して働ける労働環境整備を促進する。 →目標を上回り達成できた。	管理職に占める女性比率8%以上維持、男性社員の育児休業取得率を取得対象となる社員の7%以上にする。	管理職に占める女性比率: 10.5%(2024.7現在) 男性育休取得者: 20%(2023年度)

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。